

平成29年度 学校評価結果について

1 アンケート調査結果による自己評価と学校関係者評価

アンケートの選択肢（A よくあてはまる・B ややあてはまる・C あまりあてはまらない・D 全くあてはまらない・E わからない）のうち、AとBの合計の割合をプラス評価、CとDの合計の割合をマイナス評価と捉え考察している。

(1) アンケート調査結果のまとめと考察（○良い点 ●改善が必要な点）……自己評価

① 児童

「学校生活に関する項目」では、80%から90%の児童がプラス評価をしている。また、「自分の生活に関する項目」では、概ね70%から80%の児童がプラス評価をしている。

- 「学校へ行くのが楽しい。」のプラス評価は、8.4%向上し91.3%となった。校舎新築に関する全ての工事が終了し、恵まれた環境の中で落ち着いて学校生活を送ることができた結果である。また、児童相互、児童と教師との間に良好な人間関係が構築されている結果でもある。
- 「授業中、先生や友だちの話をきちんと聞いている。」のプラス評価は、毎年向上してきており、本年度は90.6%となった。児童の「聴く」力の育成をめざして、校内で研究に取り組んだ成果が見られる。
- 「給食は、好ききらいしないで、できるだけ残さず食べている。」のプラス評価は、6.2%向上し81.9%となった。校内全体で「残食ゼロリンピック」や「食育パワーアップ作戦」に取り組んだ成果が出てきている。今後も更に食育指導の充実を図っていきたい。
- 「家庭でも毎日勉強をし、宿題などの忘れ物はほとんどしない。」のプラス評価は、13.3%向上し79.8%となった。授業における学習規律が定着するにつれ学習習慣も定着してきた。今後も、保護者と連携を図りながら、「家庭学習の手引き」等を活用した家庭学習の仕方を継続して指導し、プラス評価90%以上をめざしていきたい。
- 「先生方は、あなたのことを分かってくれている。」のマイナス評価が16.7%であった。昨年度より7.5%増加しており、改善の必要性を感じる。今後は、更に児童理解を深めていくための方策を全教職員で共通理解していく必要がある。
- 「自分から進んであいさつしている。」のプラス評価は、74.7%で昨年度とほぼ同じ状況である。本年度も全校であいさつ運動等に取り組んだが、あまりその成果が見られない。基本的な生活習慣の定着に向けて、常時指導を充実させていく必要がある。
- 「授業中、進んで発表しようとしている。」のプラス評価は、7.3%向上し50.7%となったが、全体と比較するとまだまだ低い数値であり、今後の大きな課題である。児童の「伝え合う力」の育成に向けて取り組んでいく必要がある。

② 保護者

本校の教育活動について、常にご理解とご協力をいただいております。全項目の7割以上が80%を超えるプラス評価となっている。

- 「学校は、保護者や地域と連携して教育活動を進めようとしている。」「学校は、地域行事に積極的に関わっている。」「学校は、分かりやすい授業に努めている。」の項目において、プラス評価が85%を超えており、昨年度よりも向上している。日ごろの学校教育活動の様子から判断していただいた結果であるが、更に保護者や地域との連携を図っていくとともに、「より分かる授業」をめざして授業改善に取り組んでいきたい。
- 「運動会や遠足等の学校行事の内容が適切である。」のプラス評価は、昨年同様90%を超えている。学校行事を精選して、内容に工夫を凝らした取り組みが評価されたと考える。
- 「学校は、あいさつなどの生活指導に努めている。」のプラス評価は85.0%となっている。日ごろのあいさつ運動等への取り組みが評価されたものとする。今後も保護者と連携し、児童の基本的な生活習慣の定着に向けて取り組んでいきたい。
- 「学校は、教育方針を分かりやすく保護者や地域に伝えている。」のプラス評価は、昨年度よりも向上してきているが、80%を下回り77.8%となっている。学校ホームページや学校だより、学校からのメール発信だけでなく、保護者や地域への情報発信の方法を更に工夫していく必要がある。
- 「学校行事やPTA活動などに、参加するようにしている。」のプラス評価は、66.6%であり、昨年度同様70%を下回っている。各行事にボランティア等で積極的に協力して下さる保護者の方も増えてきているが、今後はPTA役員の方とも相談しながら、行事の精選や内容・運営方法の工夫を行い、「誰もが気軽に参加できるPTA活動」「子どものためのPTA活動」をめざしていきたい。

③ 教職員

本年度も沖洲小学校グランドデザインに基づき、全教職員の共通理解のもと学校教育目標の実現をめざして、教育活動に取り組んできた。

- 学校教育目標実現に向かって、学校運営されている。
- 子どもの興味・関心・意欲を喚起するように、授業に工夫を凝らしている。
- よりよい仲間づくりを通して、思いやりの心を育成するよう努めている。
- 保健・安全教育を充実させ、健康で安全な生活を営む力を育成するよう努めている。
- リソースルームなど特別な支援を必要とする子どもへの校内支援体制が整備されている。
- 保護者からの連絡や相談に、適切に対応している。
- 校内における教職員間の共通理解や協働体制が十分でない場面がある。
- 基本的な生活習慣（規則の遵守・あいさつ・言葉遣い等）の定着や生徒指導において、地域・保護者・関係機関との連携が十分でない。
- 「自ら学び自ら考える力」を育成するためにも、学力向上実行プランに基づいた取り組みを更に推進していく必要がある。

(2) アンケート調査結果に基づいた学校関係者の意見……学校関係者評価

①学校からの情報発信について

- ・従来のように学校便りや学年便り、ホームページでの情報発信だけでなく、地域の会合等でも学校の教育活動の様子をしっかりと伝えていくとよい。

②学習指導・生徒指導について

- ・今後も教師の指導力向上に向けて取り組んでいってほしい。また、児童アンケートの「先生方は、あなたのことを分かってくれている。」のマイナス評価が 16.7 %になっているのは課題である。各学級において、子どもたちが「誰もが自分の存在を認めてくれている。」という意識をもてるような指導を継続していくことが大切である。

③教育環境整備について

- ・新校舎の活用方法について、地域や保護者へもっと周知する必要がある。

④学校行事・地域行事について

- ・地域の方々が中心になって運営してくれた夏休みのラジオ体操や公民館主催の学遊塾には、多くの児童が参加してくれている。地域としても、行事の内容を更に工夫し、子どもたちや保護者が参加したいと思うような魅力的な行事を企画していきたい。また、親子が一緒に遊んだり、話し合ったりできるような楽しい学校行事を企画してほしい。

⑤あいさつ等の基本的生活習慣の指導について

- ・あいさつや言葉遣いは、コミュニケーションの基本である。学校だけでなく家庭にも協力してもらい定着させていくことが重要である。また、あいさつ運動の期間だけの指導でなく、年間を通しての継続的な指導をしていく必要がある。

⑥家庭での子どもたちとの会話について

- ・保護者アンケートでは、家庭での子どもたちとの会話についてプラス評価が 94.7 %になっておりとても良い傾向だと思う。これからも保護者の方には、「子どもに寄り添い子どもの思いを聴く会話」「子どもの自己肯定感を高められるような会話」となるように家庭でも努めてほしい。

⑦学校行事やPTA行事への参加について

- ・学級懇談等への保護者の参加が少ないようだが、学校側も工夫を凝らして、保護者が参加して話を聞きたいと思うような魅力ある学級懇談を行うことが大切である。また、仕事をもっている保護者も多いことから、年に1回は夜間に学級懇談を行うことも参加者を増やすための一つの手立てである。
- ・PTAの役員の方々は、団結力があり、子どもたちのために一生懸命に取り組んでくれている。PTA役員の方が中心となって、多くの保護者に直接声かけをして、仲間の輪を広げPTA行事の参加者を増やしていってほしい。
- ・学校行事やPTA行事を通して、保護者同士のより良い人間関係をつくっていくとよい。子育ての悩みを共有したり、先輩の保護者からアドバイスをもらったりすることで、保護者間のつながりが強くなる。また、そのつながりは地域の活動の中でも生かされてくる。

2 今後の学校教育改善方策について

○学校運営について

- ・本年度の取り組み事項を検証し、より児童や保護者、地域の実態に合ったグランドデザインを作成する。
- ・年間を通してグランドデザインを意識した協働的な取り組みができるように、グランドデザインに対する教職員の意識を高めていく。

○確かな学力の向上について

- ・指導方法の工夫改善に更に取り組み、「楽しく分かる授業」「考える授業」を実践していく。
- ・より効果的な T・T 指導をめざすとともに、少人数指導や少人数習熟度別指導も視野に入れて、校内体制を整備していく。
- ・特別支援学級（たんぽぽ学級）や通級指導教室（のりっこ教室）、リソースルーム（ねぎっこ教室）との連携を図り、個に応じたきめの細かい指導を充実させていく。
- ・「聴き合う授業」を継続しつつ、更に「伝え合う授業」が実践できるよう研修に取り組んでいく。
- ・学習習慣の定着に向けて、「家庭学習の手引き」の改訂を行うとともに、本校独自の「家庭学習ノート」の作成についても検討していく。また、様々な機会を通して、家庭学習について保護者の理解や協力を呼びかけていく。

○豊かな人間性の育成について

- ・偏見や差別を許さない人権教育、自他を大切にする道徳教育を更に推進していく。
- ・道徳の教科化に伴い、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、道徳の指導方法を更に工夫していく。
- ・よりよい仲間づくりを通して思いやりの心を育成するために、縦割り班による異学年集団活動の実施について検討していく。

○健やかな体と体力づくりについて

- ・指導内容や指導方法の工夫改善を図り、体育授業を楽しく充実したものにしていく。
- ・健康安全・体育的行事の充実を図ることにより、運動に親しむ態度を育成し、年間を通して児童の体力の向上をめざしていく。
- ・校外体育的行事への児童の積極的な参加を促していく。
- ・食育指導の充実を図るとともに、望ましい食習慣の定着に向けて、家庭と連携して取り組んでいく。

○防災教育について

- ・本年度の実践の成果や課題を明確にし、学校防災計画や防災教育年間計画の見直しを行う。
- ・今後も計画的に防災教育を推進していくとともに、避難所としての学校の果たす役割を全教職員で共通理解し、各自が主体的に行動できるようにしていく。
- ・新校舎の防災設備や施設の周知を更に行うとともに、地域の自主防災組織や保護者と連携した訓練や活動を充実させていく。